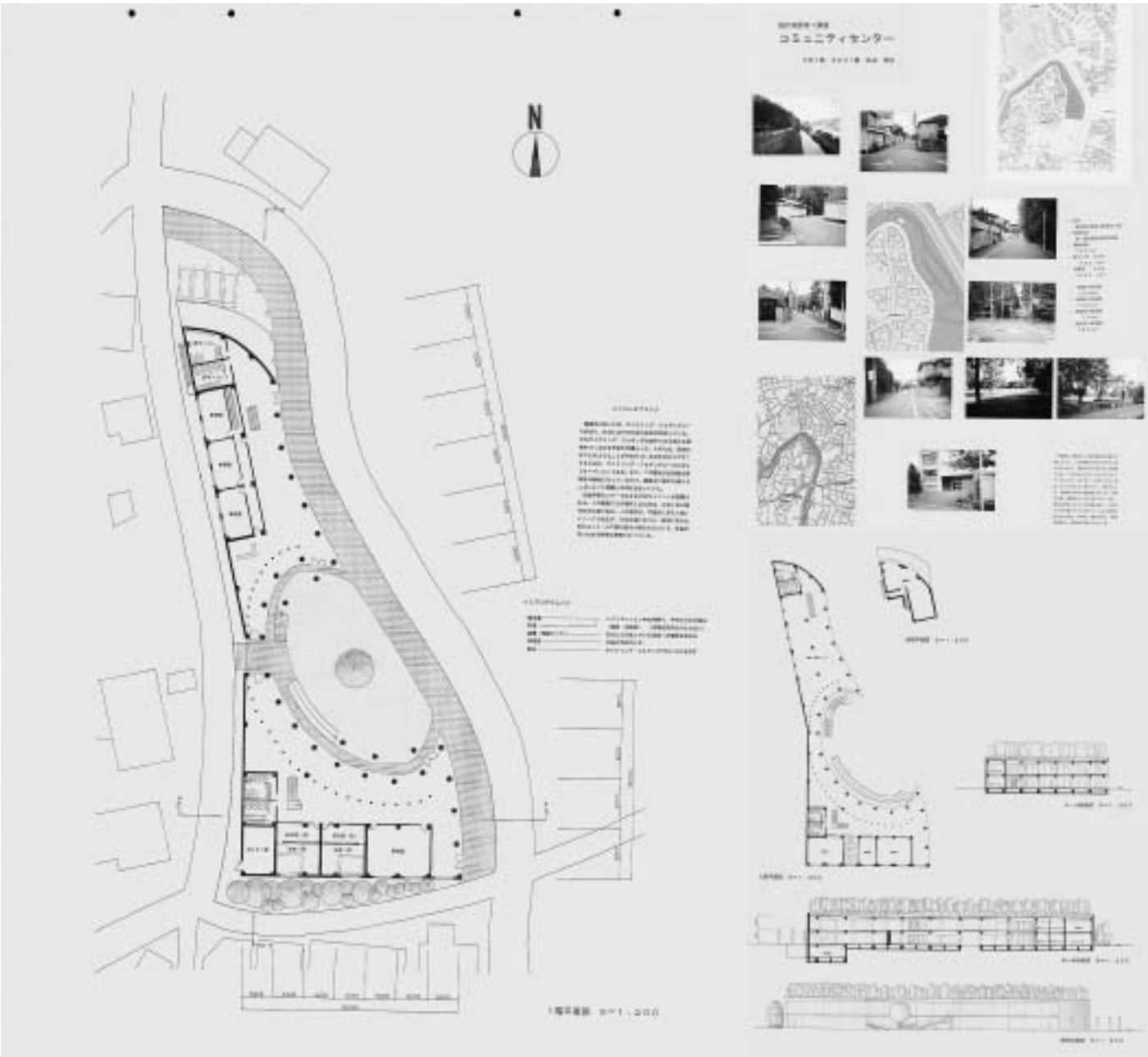
長山　朋之



設計演習Ⅰ

第１課題
生涯学習の拠点

第２課題
シティ・スポーツのための
空間

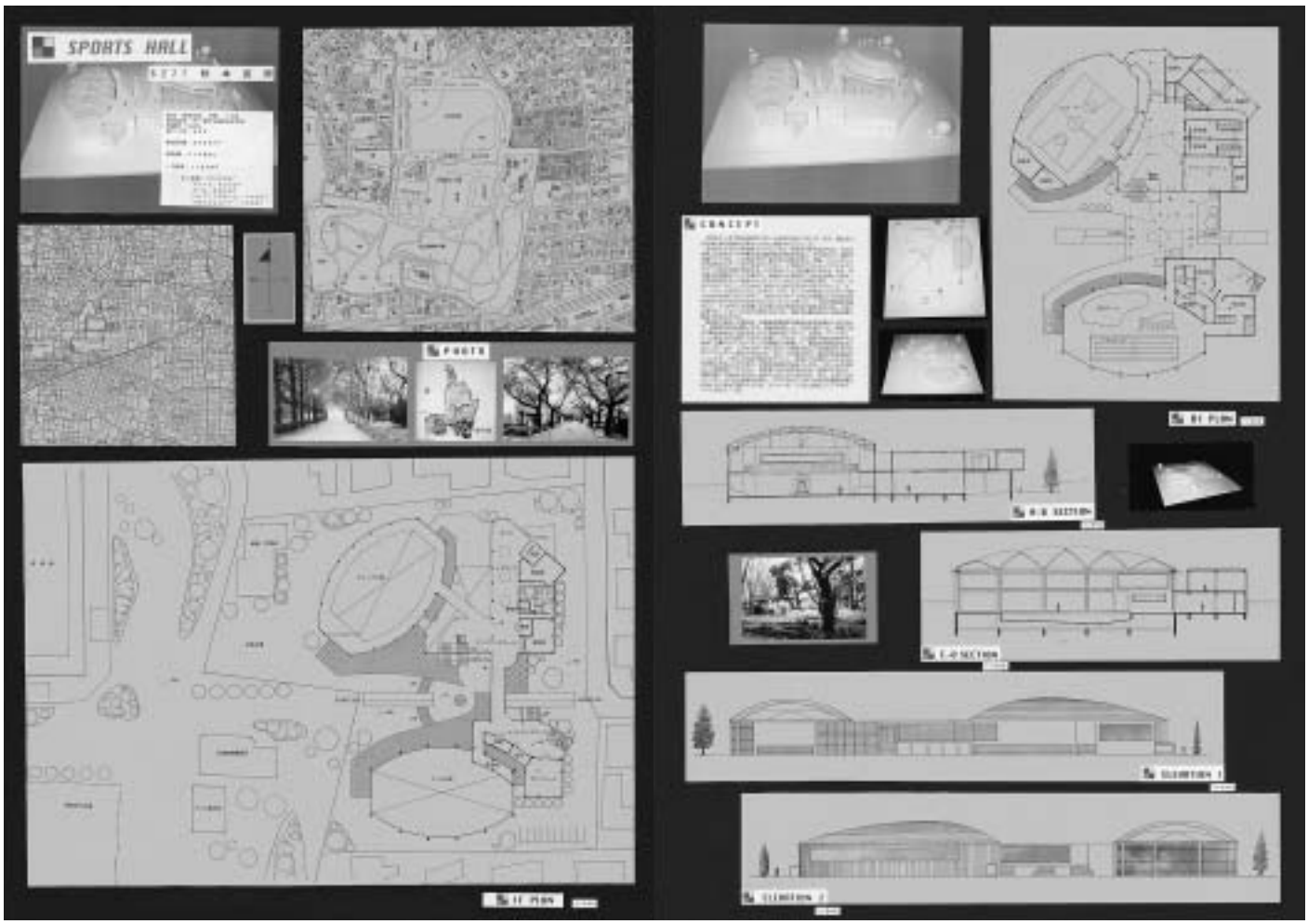
３年１組

担当：
若色　峰郎

【第１課題】
長山　朋之
敷地付近の住民が気軽に立ち寄れる建物をつくるのを目標とした。そのため、建物の中でどのようなことが行われているのかわかりやすくするために、マラソンコースに対してオープンにした。また、屋根上に樹木を植えることによって周囲との同化を図った。中央にある楕円形の広場は、平面的に見ると鋭いイメージであるが、その広場に立つと、建物に包み込まれるイメージで落ち着きが得られるという、表裏を持った空間になっている。

指導＝若色　峰郎
この課題は敷地の選定からはじめられた。現在、自分が住んでいるか、もしくは住んだことのある町を対象とすることで、その地域の状況を最もよく理解できていると考えられるためである。
長山案は杉並区の善福寺川に沿った住宅地の一画を敷地とした。隣接地に小学校があり、また、第２課題に予定しているスポーツセンターの敷地と併せて選定したもので、地域施設の立地条件としては好条件を備えている。計画のコンセプトである善福寺川沿いに整備されつつある緑道を、本施設のメインアプローチとして把え、緑道側に緩やかにカーブしたガラスのファサードは、内部の様々なアクティビティが散見され、地域の人々を誘引する効果も期待できそうである。
一方、住宅地側の立面はやや閉鎖的な感じがするが、全体としては地域の生涯学習施設として、まとまりのよい作品と思う。

松本　直樹



【第２課題】
松本　直樹

「地域のスポーツ文化定着の役割を担う施設」というテーマで設計を行った。そのため敷地も、野球場、テニスコートなどがあり、花見の名所としてもその地域では有名な「羽根木公園」の隣に選定した。周りは住宅地であるため、建物を２m掘り下げ、ボリュームを減らすことを第１に考え、敷地を横切る道路をスロープにし、公園へのアプローチという機能だけを残し、公園の延長として建物全体の計画を行った。

指導＝若色　峰郎

地域のスポーツ施設は健康増進や、スポーツを通じての交流を目指す日常的な生活密着型の利用が多く、一般の競技主体型のものとは施設そのものに大きな違いがある。この課題は子供から高齢者までの様々なスポーツレベルの人々が集い、スポーツに親しむ場であり、個人の利用が主なものとなっている。
この課題も、敷地は各自が設定することからはじめられた。松本案は計画地を世田谷区羽根木公園の隣接地に選定しており、周辺は閑静な住宅地となっている。計画のコンセプトとして、公園へのメインアプローチとスポーツセンターをクロスさせ、ペデストリアンデッキから各スポーツフロアを覗かせようとした仕掛けは興味深い。また、スポーツ空間は、その機能上、階高の高い建物となるため、周辺環境とのとり合いを考慮し、１層分を地下階へ下ろしたことで、サンクンガーデンがスポーツ空間への採光、通風を確保していることも好ましい。その他、アリーナやプールの付属室廻りの計画も一応まとまりをもっており、全体としてバランスのとれた作品と思う。